公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

# 探鳥会スタッフ通信 2014年10月号

日本野鳥の会80周年

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記
（特集・ツバメのねぐら入り観察会）・・・1
◆トコロジストになろう
「ノンプロフェッショナル・ナチュラリスト」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
◆京都支部の保険対応について ・・・・・・6
◆探鳥会保険集計結果
（2014年8月分） ・・・・・・・・・・・8
◆普及室からのお知らせ
・ツバメのねぐらアンケート調査のご報告・10
・新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み・・・・・・・11
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・13
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・14
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・14

## ◆探鳥会訪問記（特集・ツバメのねぐら入り観察会）

財団では、支部連携団体にアンケートのご協力をいただき、全国の主なツバメのねぐらを紹介するマップの作成を進めています。今年の夏、ねぐらについての聞き取りを兼ね、関西地方と関東地方で開催されたツバメのねぐら入り観察会に参加しましたので、各地の様子をご報告します。

### ■宇治川ツバメ探鳥会（京都支部）

参加日時：2014年8月2日（土）
17時30分～19時30分
天候：曇りのち雨
参加者：約18名（財団事務局2名を含む）
リーダー：1名

▲堤防沿いに数百人が集まり観察している

開催場所は京都府伏見区の宇治川河川敷で、集合場所の観月橋駅からは徒歩約15分の場所でした。

宇治川河川敷ではこの日、京都支部以外にも3団体がツバメのねぐら入り観察会を実施していました。関西地方では、ツバメのねぐら入りが夏の風物詩として、多くの方たちに親しまれているという印象を受けました。

堤防からヨシ原を見下ろすように立って観察しました。背後には田んぼが広がっており、ツバメは、背後の田んぼ側から観察している真上を飛び、ヨシ原に入っていきました。

ツバメが利用しているヨシ原の面積は約45ha。目の前のヨシ原から、遠くのヨシ原まで、約2万羽のツバメの群れが観察できました。中でも、一度ヨシ原にとまったツバメの群れが、適した場所を探しているのか、広大なヨシ原の中を群れだって移動する様が見事でした。

## ■牧野ツバメのねぐら入り観察会（大阪支部）

参加日時：2014 年８月３日（日）
　18 時 00 分～20 時 00 分
天候：雨
参加者：13 名（財団事務局２名を含む）
リーダー：２名

　あいにくの天気でしたが、「自宅の車庫に毎年ツバメが巣を作るけれど、その後はどうしているか分からなかった」という一般のご夫婦も参加してらっしゃいました。
　集合場所の牧野駅から徒歩約 10 分、淀川河川敷から、対岸の鵜殿のヨシ原を観察しました。
　鵜殿のヨシ原は 75ha と規模が大きく、ツバメの数も約 3 万羽と非常に多く観察されました。大阪支部では、支部報「むくどり通信」2013 年 11 月号によると、他団体とも協力して少なくとも 2006 年から大阪府のツバメのねぐらを調査しているそうですが、ここ鵜殿のツバメの数が最大だそうです。双眼鏡で覗くと、低い位置から上空までツバメがびっしりと見られました。
　この場所では定例探鳥会も行われており、リーダーからカラスウリのある場所を案内いただき、レース状の花びらを綺麗に開いたカラスウリの花も観察できました。

▲カラスウリの花

## ■多々良沼ツバメのねぐら入り探鳥会（群馬）

参加日時：2014 年８月 23 日（土）
　17 時 00 分～19 時 00 分
天候：晴れ
参加者：36 名（財団事務局４名を含む）
リーダー：４名

　多々良沼は、群馬県館林市と邑楽町にまたがる沼で、約 25ha のヨシ原があります。主担当のリーダーは、多々良沼自然公園を愛する会のメンバーとして、ゴミ拾いやヨシ刈り、ヨシ焼きなどを行っているそうです。
　ツバメが飛んでくるまでは、夕暮れのバードウォッチングを楽しみました。ダイサギがきりもみ降りをしながら高度を下げ、ヨシ原に降りる姿や、鳴きながら飛び立つゴイサギの群れが観察できました。

▲夕暮れのバードウォッチング

　日没が近づき、ツバメの姿が見え始めましたが、何とツバメは多々良沼を通過して飛んでいきました。そこで急きょ観察場所を変え、田んぼ上空を舞うツバメの姿を観察しました。遠方ではありましたが、数万羽が乱舞する様子を観察できました。

（後日、財団の富岡が多々良沼を訪れ、田んぼの中のヨシ原でねぐらをとっていたのを発見し、リーダーの皆さんと共有しました。）

## ■渡良瀬遊水地ツバメのねぐら入り観察会（栃木）

参加日時：2014 年９月６日（土）
　17 時 00 分～19 時 00 分
天候：曇りときどき雨
参加者：143 名（財団事務局３名を含む）
リーダー：約５名

　集合場所の栃木市藤岡遊水地会館から、リーダーに従い、各自、車で観察場所近くまで移動しました。渡良瀬遊水地がラムサール条約に登録されて注目度が高まったことや、行政による広報の効果もあり、ここ数年は 100 名を超える参加があるとのことです。この日も次々と参加者が集まってきました。

▲大勢の人で賑わう集合場所

　渡良瀬遊水地は植生面積が 2,500ha と広大で、ツバメがねぐらをとる場所が毎年変わる環境とのことでした。リーダーの１人は７月下旬から連日のように遊水地に通い、ツバメのねぐらを観察してきたそうです。今年だけでもねぐらの場所は３回変わったそうですが、当日は、ツバメがねぐらをとるヨシ原の間近で観察することができ、数万羽のツバメが舞う姿に、あちこちから歓声があがっていました。

## ◆まとめ

　ここにご紹介した以外にも、奈良支部が記録や観察会をされている奈良県の平城宮跡や、東京都の多摩川河川敷、埼玉県の芝川第一調整池、山梨県の談合坂サービスエリアのツバメのねぐらを観察に行きました。

　複数ヶ所のツバメのねぐらを観察して感じたことは、ねぐらと一言に言っても、場所によって、ヨシ原との距離感やツバメの見え方、ツバメ以外の生きものの楽しみなどが異なり、場所ごとの魅力があるということでした。河川敷では広大なヨシ原を見下ろしながらの観察ができ、ヨシ原との距離が近い平城宮跡などでは、ヨシにつかまって休んでいるツバメが間近で見られ、また、多々良沼や芝川第一調整池などでは、ツバメ以外の野鳥の観察も楽しめました。

　関西地方と関東地方を比べて印象的だったのは、関西地方では、観察会とは関係ない日にも、近所の方たちが、団扇やレジャーシートを持ってねぐらを訪れ、日常的に観察している姿が見られたことでした。関東地方と比べて、ねぐらがより身近なものとして認識されているのだと感じました。

　どこでも共通していたのは、ねぐらを見た方たちの反応でした。普段生活していて見られるツバメの数は多くて数十羽。巣立った後はどうしているのか想像がつかなかったツバメが、何千、何万という数で舞う姿に、皆さん感動されていました。

　支部の皆さんには現地で大変お世話になりました。この場を借りて心より感謝いたします。ありがとうございました。

（普及室／堀本理華）

## ◆トコロジストになろう

### 第７回「ノンプロフェッショナル・ナチュラリスト」

『ノンプロフェッショナル・ナチュラリスト』。この言葉を始めて聞いたのは、2010 年７月吹田市立博物館で開催された岩槻邦夫先生（東京大学名誉教授・兵庫県立人と自然の博物館館長）による講演会だった。

岩槻先生は、1990 年代に外国の学会で、「日本で初めての『植物レッドデータブック』を数年で完成させたい」と報告した。そのとき外国の学者からは、「日本には植物の種類が多いのに対し、プロフェショナル（この場合、学者）が少ない。そんな短い期間で完成する筈がない。」と言われたそうだ。

しかし、数年後予定通り完成させることができた。その理由について岩槻先生は、日本にプロの学者は少ないかもしれないが、**アマチュアという言葉では失礼に当たる人たち、もっと専門的で深く地域の自然を知っているノンプロフェッショナル・ナチュラリストと呼ぶべき人**が多数おられ、その人たちの協力があったからできたのだと説明された。

これを聞いて私は、学者ではないが単なるアマチュアとも違うレベルがある、ということを意識した。

大阪支部で 20 ヶ所ある定例探鳥会リーダーや、各地の環境団体で観察会や保護・保全活動をされている方はすべて、「ノンプロフェッショナル・ナチュラリスト」と呼ばれるべき人々と直感した。

財団普及室の箱田敦只氏が広めようとされている「トコロジスト」は、岩槻先生の「ノンプロフェッショナル・ナチュラリスト」とほぼ同義語、地域の環境について、深く・幅広く知っている方々である。私も吹田市のトコロジストとして活動している。

#### ■鳥を知り、心身安定に

50 年前、私は新潟県で腎炎と診断され、すぐ治ると言われ入院した。しかし治ることなく１年半の病院生活を送ることとなった。

当時新潟大学病院の診断は「あと 10 年ほどで『腎臓移植』か『人工腎臓＝透析』が実用化されるので、それまで生きているように」であった。退院したものの「死をゆっくり待つように」と思われる宣告を受けての生活は心理的に不安定で、一寸したことで血圧が上がる、動悸がするという日々が続いた。

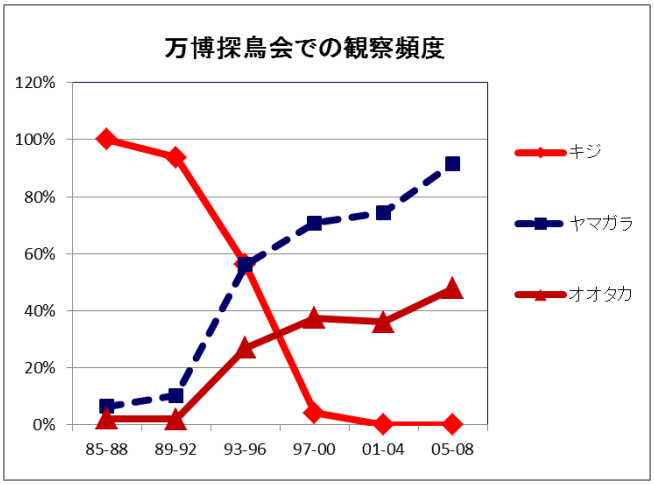
そんな中、新潟から大阪に転勤したものの状況は変わらず、いろいろ試みてようやく得た結論は、毎日通勤時に歩く（片道約 2km）、休日は距離を伸ばし 10km ほど歩くことであった。

ハイキングコースの東海道自然歩道（大阪・箕面～東京・高尾間）を歩いていたとき、冬の岩間寺(タカ渡り観察地として知られている京都府・滋賀県境の寺)で出会ったウソの群、宇治平等院近くで見たルリビタキが鳥を意識した最初である。

その後住んでいた高槻市などで鳥を見ていたが、日本野鳥の会があることを知り入会したのが昭和 55（1980）年だった。各地で開催される探鳥会に参加し、諸先輩に教えられ鳥を楽しんでいると、いつの間にか心身の不安定感が消え、毎週外出しても腎炎は悪化しなかった。

#### ■トコロジスト事始め～万博公園探鳥会～

吹田市に転宅し、近くの万博公園に鳥がいることから、万博公園定例探鳥会を開始したのが 1985 年２月。来年２月で満 30 年となる。日本野鳥の会野鳥記録委員でもあった故塩田猛氏が近くにお住まいだったので、協力をお願いした。



鳥の説明を塩田さんにお願いし、私はニッチ的な植物と鳥の関係に目を向けるようになり、万博公園での観察を中心に「植物と鳥の歳時記」と題して、大阪支部会報「むくどり通信」に 6 年間連載した。また 2005 年には万博探鳥会 20 周年となり観察記録をまとめ記念誌を発行した。

万博公園の観察記録を見ると、図のようにキジを中心とする草原の鳥がいなくなり、反対にヤマガラなど林の鳥が増えたことがわかった。キジがいなくなった原因は公園管理のし過ぎと思っていたが、真実は植えられた樹木の生長＝自然遷移により、キジの住める草原がなくなったためであった。更に 2007 年からは園内にオオタカが繁殖するようになった。

万博探鳥会からスタートし、徐々にトコロジストへの道へ進んだ。

①1997 年

すいた市民環境会議設立へ参画し、吹田市内の生きもの調査や講座

②1998 年

吹田野鳥の会を設立し、地元吹田市内や万博公園で活動

③2003 年

植物観察会を開始し、鳥以外に観察対象を広げた

## ■大阪府絶滅危惧種がライフワークに

2011 年すいた市民環境会議の野草観察会で名前が分からない植物が見つかり、大阪市立自然史博物館に調べてもらった結果、「ヤマサギソウ」というラン科植物で、大阪府では 70 年ぶりの再発見とわかった。

更にその周辺で「アイナエ」「イヌセンブリ」「スズサイコ」いう、大阪府絶滅危惧Ⅰ類、Ⅱ類にランクされている植物が続いて見つかり、生育地が未利用公有地のため、役所に保全・保護への協力をお願いするとともに、一般市民に対して観察会を開催している。現在、勉強会として「環境楽座」を企画し、野草・里地管理専門の大学教授４名・博物館研究員２名と計６名の先生による６週連続講座「吹田の原っぱ」を 10 月～11 月に実施中である。

10 年後に実用化される筈の透析 or 腎臓移植の技術確立を待つようにと宣告された日からほぼ 50 年、今が一番健康で充実した日々となっている。鳥からスタートし、樹木・野草・シダなど自然、それを一緒に楽しんだ多数の先輩や友人、その上、家内が開いている健康体操教室「真向法」を 10 年以上続けてきたおかげである。

集合住宅の生活から脱却したいとの思いから郊外のニュータウンで戸建用の土地を購入し、10 年前の定年時に新居を検討した。しかし、「探鳥会・観察会・調査で一緒に楽しみ、話し合い助け合ってきた人々と別れ、新しい土地でこれだけ多数の人に出会えるだろうか」と考えたとき、新居よりも友（人的資産）を持ち続ける方が良いと思い、結局断念した。

今から思えば、この時吹田市のトコロジストとして一生を終える覚悟をしたことになる。

後期高齢ラインを超えた人生最終章に、花を咲かせることができる４種もの絶滅危惧種に巡り合い、トコロジストを満喫している今日この頃である。

（評議員・大阪支部副支部長／平(ひら)軍二）

## ◆京都支部の保険対応について

全国の支部連携団体では、様々な活動が展開されています。それぞれの活動に合わせて、多様な保険商品から何を選べばよいのか迷うことも多いかと思います。

そこで、今回は京都支部の事例として、活動ごとにかけている保険をご紹介します。（普及室）

### ■探鳥会

京都支部は年間 70 回探鳥会を開催しています。年間の探鳥会参加人数は 1500 人で、1 回あたりの参加者は 20 人ほどです。

探鳥会の保険については、財団の探鳥会保険だけでは補償が十分ではないので、これと合わせて独自にレクレーション傷害保険（※１）を掛けています。

レクレーション補償（傷害保険）（※１）

| | | |
|---|---|---|
| 傷害保険 | 死亡・後遺障害 | 1000 万円 |
| | 入院日額 | 5000 円 |
| | 通院日額 | 1500 円 |
| 賠償責任保険 | 1 名につき | 3000 万円 |
| | 1 事故につき | 1 億円 |
| 1 人あたりの保険料（両保険合わせて）60 円 | | |

この保険では傷害保険の他に、探鳥会開催中の事故で死亡したり、ケガによる後遺症が出て損害賠償請求が出た時のため、賠償責任保険も掛けています。具体的な補償額は、掛け金の多寡によって違いますが、京都支部では両保険合わせて年間９万円の保険料を支払っています。

対象は日帰り探鳥会で、1 人 1 日の掛け金 50 円、原則として最少参加人数 20 人以上という規定があります。

レクレーション傷害保険は 1 年契約で、およその参加者数を予想して保険料を算定し、翌年の更新時に清算しています。

また賠償責任保険の契約には、あらかじめ探鳥会開催日、開催場所を保険会社に通告する義務があり、京都支部では３か月毎（年間の探鳥会計画を立てられないので、1 年契約ができない）に更新しています。さらに賠償責任保険の更新のため、毎月開催した探鳥会参加者数を保険会社に報告しています。

### ■調査活動

これまで、調査活動は探鳥会と同じレクリエーション保険（探鳥会保険を含む）をかけていました。

ところが、近年レクレーション保険の扱いが厳しく見られるようになってきたために、調査活動にあった保険を別に探さなければならなくなりました。

いろいろと検討した結果、京都支部では社会福祉協議会の福祉行事保険（※２）に加入することにしました。

福祉行事保険 A プラン（※２）

| | | |
|---|---|---|
| 傷害補償 | 死亡・後遺障害 | 467.7 万円 |
| | 入院日額 | 3000 円 |
| | 通院日額 | 2000 円 |
| 賠償責任補償 | 1 名につき | 1 億円 |
| | 1 事故につき | 2 億円 |
| 1 人あたりの保険料 | | 30 円 |

この保険を選んだのは、事前に調査参加者の名簿がなくてもよいことと、探鳥会保険と違って適用される活動の幅が広いこと、その割に掛け金が安いことが理由でした。調査活動の他、ほとんどの非営利活動に適用されます。

保険加入の条件として、個人ではなくボランティア団体であることが求められますが、ここは野鳥の会の趣旨に合わせればクリアできます。

加入登録手続きは、各地方自治体の中にある社会福祉協議会が窓口となっており、一度登録すると、毎年４月の更新時や個別行事の前に保険の申込書を提出するだけで、手続きは簡単です。

京都支部では、1 月に全国一斉に行われるガンカモ調査を京都府から受託しています。府内

200 か所を越える調査地点を、会員 60 余名が赴いてカウントをしています。京都支部では、ガンカモ調査を来年 1 月 10 日（土）、11 日（日）、12 日（月・祝）の集中調査日に行うことにして、その３日間を保険適用しています。

調査期間は２週間となっていますが、すべての日に適用すると保険料が過大となるためです。１人１日の掛け金 30 円で、60 人の調査員が関わり、３日分で 5400 円となります。

調査当日は、調査報告書に出席者名を記載（名簿の代用になります）し、支部事務所に送付してもらいます。この３日間なら、府内全域どの地点でも保険適用されます。

## ■鳥獣保護区調査

京都支部は、京都府から３か所の鳥獣保護区調査を受託しています。こちらは、あらかじめ調査員が決まっているので名簿を提出して、社会福祉協議会のボランティア保険（※３）に加入します。調査活動中のケガなど（福祉行事保険と同じ）を補償し、日射・熱射障害も含まれています。被保険者（調査員は各地点 2～4 人従事）１人あたりの掛け金 250 円で、１年契約（４月１日から翌年３月 31 日まで）です。

ボランティア保険は、重複して掛けることができないので、本人に確かめる必要があります。また期間途中から入っても３月 31 日で満了します。

この保険は、あらかじめ被保険者名簿を提出しなければなりませんが、調査の回数が多く、実施日が天候などのため特定できない、鳥獣保護区調査に向いています。

また、被保険者が探鳥会など他の活動に参加した場合でも適用されます。

なお福祉行事保険、ボランティア保険とも賠償責任保険を付保しています。

ボランティア保険基本 S プラン（※３）

| | | |
|---|---|---|
| 傷害補償 | 死亡・後遺障害 | 831 万円 |
| | 入院日額 | 5000 円 |
| | 通院日額 | 3000 円 |
| 賠償責任補償 | 1 事故につき | 3 億円 |
| 1 人あたりの保険料 | | 250 円 |

## ■お近くの社会福祉協議会へ

今回ご紹介した福祉行事保険やボランティア保険は、京都府社会福祉協議会のプランですが、皆さんの地元の社会福祉協議会でも同様の保険商品があるのではないかと思います。

ぜひ一度お近くの社会福祉協議会にお問い合わせいただくとよいと思います。

（京都支部支部長／石川順一）

## ◆探鳥会保険集計結果（2014 年８月分）

８月は 65 支部からご報告をいただき、計 144 回の探鳥会が開催され、のべ 2,530 人が参加されました。

表１．８月の探鳥会保険集計結果（2014 年9月 15 日現在）

| 支部 | 開催回数（回） | 参加者数 | | スタッフ数（人） | 合計人数（人） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 会員（人） | 非会員（人） | | |
| 小清水 | − | − | − | − | − |
| オホーツク支部 | 2 | 40 | 20 | 2 | 62 |
| 根室支部 | − | − | − | − | − |
| 釧路支部 | 2 | 14 | 10 | 5 | 29 |
| NPO法人日本野鳥の会十勝支部 | − | − | − | − | − |
| 旭川支部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 滝川支部 | 1 | 16 | 2 | 2 | 20 |
| 道北支部 | 2 | 11 | 2 | 5 | 18 |
| 江別支部 | − | − | − | − | − |
| 札幌支部 | 2 | 48 | 9 | 5 | 62 |
| 小樽支部 | 2 | 4 | 10 | 3 | 17 |
| 苫小牧支部 | − | − | − | − | − |
| 室蘭支部 | 2 | 35 | 2 | 6 | 43 |
| 函館支部 | − | − | − | − | − |
| 道南桧山 | 1 | 18 | 23 | 3 | 44 |
| 青森県支部 | − | − | − | − | − |
| 弘前支部 | 2 | 18 | 9 | 2 | 29 |
| 秋田県支部 | 4 | 59 | 10 | 4 | 73 |
| 山形県支部 | − | − | − | − | − |
| 宮古支部 | − | − | − | − | − |
| もりおか | 1 | 4 | 0 | 2 | 6 |
| 北上支部 | 2 | 12 | 0 | 2 | 14 |
| 宮城県支部 | 2 | 25 | 9 | 5 | 39 |
| ふくしま | 1 | 28 | 2 | 2 | 32 |
| 郡山支部 | 2 | 19 | 0 | 3 | 22 |
| 二本松 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 白河支部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 会津支部 | − | − | − | − | − |
| 奥会津連合 | − | − | − | − | − |
| いわき支部 | 1 | 12 | 1 | 1 | 14 |
| 福島県相双支部 | − | − | − | − | − |
| 南相馬 | − | − | − | − | − |
| 茨城県 | 8 | 43 | 45 | 11 | 99 |
| 栃木 | − | − | − | − | − |
| 群馬 | 5 | 60 | 39 | 17 | 116 |
| 吾妻 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 埼玉 | 4 | 105 | 9 | 32 | 146 |
| 千葉県 | 5 | 53 | 12 | 22 | 87 |
| 東京 | 13 | 284 | 8 | 60 | 352 |
| 奥多摩支部 | 4 | 49 | 2 | 15 | 66 |
| 神奈川支部 | 7 | 59 | 22 | 26 | 107 |
| 新潟県 | − | − | − | − | − |
| 佐渡支部 | − | − | − | − | − |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 富山 | 1 | 11 | 2 | 1 | 14 |
| 石川 | 2 | 10 | 0 | 5 | 15 |
| 福井県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長野支部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 軽井沢支部 | 1 | 8 | 11 | 1 | 20 |
| 諏訪 | 1 | 6 | 27 | 2 | 35 |
| 木曽支部 | − | − | − | − | − |
| 伊那谷支部 | − | − | − | − | − |
| 甲府支部 | 1 | 27 | 3 | 2 | 32 |
| 富士山麓支部 | 1 | 4 | 6 | 2 | 12 |
| 東富士 | − | − | − | − | − |
| 沼津支部 | 1 | 17 | 2 | 2 | 21 |
| 南富士支部 | 2 | 32 | 11 | 3 | 46 |
| 南伊豆 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 静岡支部 | 4 | 23 | 0 | 5 | 28 |
| 遠江 | 1 | 19 | 8 | 2 | 29 |
| 愛知県支部 | 5 | 26 | 17 | 10 | 53 |
| 岐阜 | − | − | − | − | − |
| 三重 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 奈良支部 | 2 | 33 | 0 | 4 | 37 |
| 和歌山県支部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 滋賀 | 2 | 8 | 7 | 4 | 19 |
| 京都支部 | 5 | 57 | 17 | 7 | 81 |
| 大阪支部 | 8 | 87 | 17 | 27 | 131 |
| ひょうご | 3 | 26 | 28 | 12 | 66 |
| NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 島根県支部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 岡山県支部 | 3 | 43 | 20 | 7 | 70 |
| 広島県支部 | 2 | 33 | 19 | 2 | 54 |
| 山口県支部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 香川県支部 | 1 | 16 | 0 | 1 | 17 |
| 徳島県支部 | 4 | 40 | 4 | 4 | 48 |
| 高知支部 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 愛媛 | 3 | 14 | 19 | 3 | 36 |
| 北九州 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 福岡支部 | 4 | 28 | 3 | 6 | 37 |
| 筑豊 | 3 | 17 | 0 | 3 | 20 |
| 筑後支部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 佐賀県支部 | 2 | 14 | 2 | 2 | 18 |
| 長崎県支部 | − | − | − | − | − |
| 熊本県支部 | 4 | 46 | 3 | 5 | 54 |
| 大分県支部 | 1 | 13 | 9 | 1 | 23 |
| 宮崎県支部 | − | − | − | − | − |
| 鹿児島 | 1 | 7 | 5 | 4 | 16 |
| やんばる支部 | − | − | − | − | − |
| 石垣島支部 | − | − | − | − | − |
| 西表支部 | − | − | − | − | − |
| 全国 | 144 | 1,681 | 486 | 363 | 2,530 |

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

## ◆普及室からのお知らせ

### ■ツバメのねぐらアンケート調査のご報告■

ツバメは非会員で野鳥の初心者の方からも関心が高い身近な鳥です。ところが巣立ち後、人家を離れ河川敷などで、夕暮れ時に数千～数万羽のねぐらを形成することはほとんど知られていません。

数万羽規模にもなると、たとえ野鳥に関心がない人でもその迫力に魅了されます。

財団では非会員の方に野鳥に関心を持ってもらうきっかけとして、全国の主なツバメのねぐらを紹介するパンフレットの制作を企画し、全国支部を対象にアンケート調査を実施しました。

**【概　　要】**

＜調査期間＞　2014 年５月～７月

＜調査方法＞

① 90 支部を対象にしたアンケート調査（5～6 月）

② 大規模ねぐらについての聞き取り調査（７月）

＜スケジュール＞

５月　アンケート用紙送付
６月　アンケート用紙回収、集計
７月　聞き取り調査
８月　データとりまとめ
10 月　ねぐらマップ制作
１月　「ねぐらマップ」納品

**【結　　果】**

＜アンケート送付数と（回答数）＞

90 支部（54 支部）

＜集計結果＞

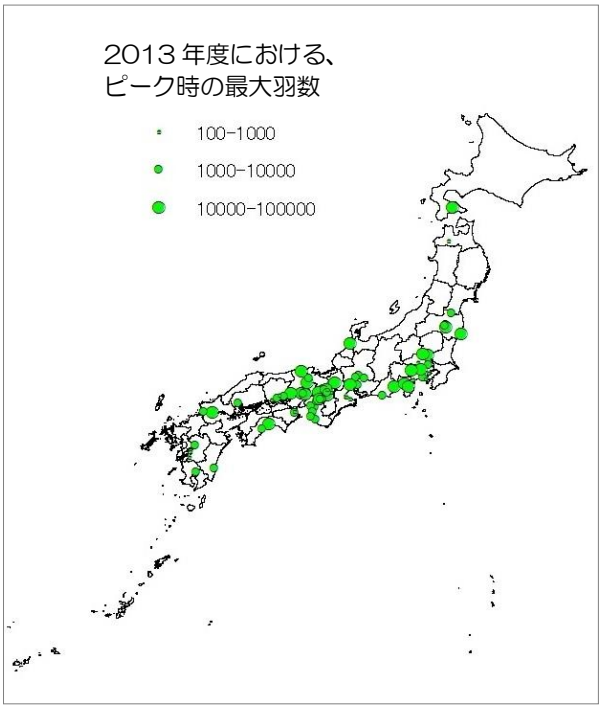
〇34 支部がねぐら「あり」、20 支部が「なし」又は「分からない」と回答した。

〇ねぐらの総数

９０ヶ所（2013 年時点で消滅している７ヶ所含む）

〇ねぐらの分布

図１に９０ヶ所に財団で把握した３ヶ所を加え、消滅した７ヶ所と位置が特定できないねぐらをのぞいた 78 か所の位置を図示した。

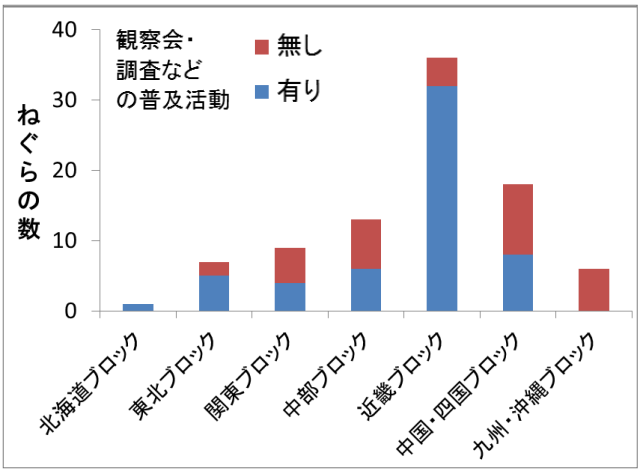



▲図１　ツバメのねぐらの分布

また、ブロックごとのねぐらの数を図２にまとめ、各ねぐらで観察会や調査などの活動をおこなっているかどうかについても示した。

その結果、近畿ブロックのねぐらの数がずば抜けて高く、全体の約４割を占めていた。

北海道ブロックでは、道南檜山から１ヶ所報告をいただいたが、その他はツバメの飛来自体が少ないという回答だった。




▲図２　各ブロックの報告件数

【まとめ】

つばめのねぐらは、夕暮れ時の 30 分～1 時間しか観察できないため、たとえ探鳥会が活発に行われている地域であっても、ねぐらを把握することは難しい。

その中でも近畿ブロックは、30 年前から支部を超えたツバメのねぐらについての調査が行われており、今回のアンケートでも情報量がもっとも多かった。

今後、できるだけ近畿地方で培われたノウハウを紹介し、ツバメの見られる地域での調査や観察会に貢献していきたい。

（普及室／箱田敦只）

## ■新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み■

### ◇日本で最も大きな鳥は？

前回は「日本で最も分布が広い鳥は？」で終わりました。今回は「最大は？」を話題にして、全長について書かせていただきます。

野鳥誌 9・10 月号で紹介された古典的名著とされる図鑑には、全長は掲載されていません。当時不可欠だったのは、計測の誤差が少ない翼長や尾長などでした。全長が必要になったわけには、野外識別で大きさをイメージしやすいことがあると思います。

『フィールドガイド日本の野鳥』で、高野は全長を「鳥を上向きにねかせて嘴を水平にした時の嘴の先から尾の先までの長さ」と解説しました。私は増補改訂版を担当した際、それに続けて「同種でも雌雄・亜種・個体による違いもあるので、図鑑の数値は目安である」と書きました。『新・山野の鳥』では「計測値は一様ではないので目安と考えてください」と補足していています。実際に測定してみると、同じ個体でもねかせた際の首の状態などによって測定のたびに数値が違うことが少なくありません。解説を書く側としては、「どんなデータからどの数値を選んで全長とするか？」・・・実はこれも悩みのタネなのです。

日本野鳥の会大阪支部が 1941 年に発行した榎本桂樹による『野鳥便覧』は、多くの種の全長が書かれたほとんど唯一の文献として参考にされてきました。私がスズメの全長を１４.５cm とするのも、榎本の測定表の大 148mm、小 135mm、平均 144mmを元にしています。近年は各国の文献でも全長を掲載するものが増えましたが、同種でも数値に幅があるし、文献による違いも大きいので、「図鑑にどう書くか？」は最終的には著者判断にならざるを得ません。

さて、このような課題があるにせよ、日本鳥類目録改訂第７版に掲載された 633 種の中で全長が最大の種は何でしょう？『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂版に掲載された数値からは、170 ㎝のハイイロペリカンとなります。

### ◇全長はどのように決める？

増補改訂版で全長を見直すために参考にした文献のひとつに、世界の鳥類学者がよく使っているLynx 発行の『Handbook of the Birds of the World』があります。そこに書かれているハイイロペリカンの全長は 160～180cm で、私はその中間の数字を採用しました。

今回、目録７版に沿った新版を編纂するにあたり、「全長が『フィールドガイド日本の野鳥』と『新・山野の鳥』『新・水辺の鳥』で違うものがあるので、揃えて欲しい」という要望がありました。日本中、世界中の文献を調べて、さまざまな計測値からその種で典型的と思われる数値、類似種と比較しやすい数値を検討してきましたが、その結果、その時々の判断で僅かですが、全長が違っている種があります。当会の発行物では同じ種が同じ全長であった方がよいのは確かですから検討を重ねていますが、今後とも改版の際に微修正を続けていくことになるかも知れません。

『Handbook of the Birds of the World』は世界中の図鑑で参考にされているので、これを元に平均の数値で統一すれば・・・という意見もありました。が、そうはいかないのです。例えばトビの全長は 55～60 ㎝とされていますが、日本産のトビの雌は 60 ㎝には収まらないでしょう。このように分布域の広い種では日本の種が当てはまりそうもないもののほかに、

幅が広すぎるのも困りものです。例えばホシハジロの全長は 42～58 ㎝とされており、ここまで差があると平均をとればよいとは思えません。

タンチョウやシマフクロウの全長も悩みましたが、今回は修正に至りませんでした。細かくミリ単位で幅を記すことが正確と思われるかも知れませんが、『フィールドガイド日本の野鳥』はもともと平均的な数値をうまく選んでいるものが多く、フィールド向きの簡単さがよいと評価されてきました。それでも雌雄の違いが大きいタカ類などでは、雌雄それぞれの平均的な数字を記すように努めています。タンチョウやシマフクロウも雌雄差がないわけはないので、現地で保護活動を担当している当会レンジャーにも協力してもらい、さまざまな論文や動物園のデータまで調べてみました。が、あまりに違いがありすぎて「どんな数字が適切か？」余計にわからなくなってしまいました。これら大型の鳥類ほど個体差も大きいし、計測誤差も大きいものと思われます。

## ◇お詫び

増補改訂の際に、亜種による違いが大きい種では全長を書き直したものがあります。ヒシクイは85㎝と書かれていたものを78～100㎝、ダイサギは90㎝から80～104㎝としました。その方向性に倣うなら、14.5 ㎝としているカワラヒワの場合、亜種オオカワラヒワは少し大きいとされるので、幅を持たせようと考えています。

▲図鑑は典型的な個体を示さなくてはならない。カワラヒワの幼鳥の嘴は暗色から淡色に変わる（写真の左～右）が、個体差がある。巣立ち後は高野が描いた色より淡くなっている個体が多いと考えて、新版では少し薄く修正した。（写真：金子精一）

「こうします」と言い切れないところでお詫びになってしまいます・・・秋の発行を目指していた新版ですが、予想以上に編集作業に時間がかかり、校正段階まで確定的なことが言えない状況にあります。申し訳ありませんが、ここでお詫びさせていただきます。また、この連載は次号も続くことになりそうです。

（普及室／安西英明）

## ◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信１０月号の電子メール版の購読者数は、先月から７名増えて８１１名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表２．探鳥会スタッフ通信 10 月号電子メール版の購読者数（2014 年 10 月 21 日現在）

| 支部 | 購読者数 | 支部 | 購読者数 |
|---|---|---|---|
| 小清水 | 1 | 福井県 | 10 |
| オホーツク支部 | 6 | 長野支部 | 2 |
| 根室支部 | 0 | 軽井沢支部 | 2 |
| 釧路支部 | 2 | 諏訪 | 4 |
| NPO法人日本野鳥の会十勝支部 | 70 | 木曽支部 | 1 |
| 旭川支部 | 4 | 伊那谷支部 | 1 |
| 滝川支部 | 1 | 甲府支部 | 1 |
| 道北支部 | 1 | 富士山麓支部 | 0 |
| 江別支部 | 0 | 東富士 | 0 |
| 札幌支部 | 1 | 沼津支部 | 3 |
| 小樽支部 | 3 | 南富士支部 | 2 |
| 苫小牧支部 | 2 | 南伊豆 | 2 |
| 室蘭支部 | 4 | 静岡支部 | 3 |
| 函館支部 | 0 | 遠江 | 5 |
| 道南桧山 | 2 | 愛知県支部 | 33 |
| 青森県支部 | 1 | 岐阜 | 2 |
| 弘前支部 | 4 | 三重 | 17 |
| 秋田県支部 | 1 | 奈良支部 | 1 |
| 山形県支部 | 3 | 和歌山県支部 | 2 |
| 宮古支部 | 1 | 滋賀 | 19 |
| もりおか | 2 | 京都支部 | 131 |
| 北上支部 | 1 | 大阪支部 | 21 |
| 宮城県支部 | 38 | ひょうご | 5 |
| ふくしま | 2 | NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 | 11 |
| 郡山支部 | 1 | 島根県支部 | 2 |
| 二本松 | 1 | 岡山県支部 | 23 |
| 白河支部 | 2 | 広島県支部 | 6 |
| 会津支部 | 2 | 山口県支部 | 2 |
| 奥会津連合 | 0 | 香川県支部 | 3 |
| いわき支部 | 1 | 徳島県支部 | 4 |
| 福島県相双支部 | 0 | 高知支部 | 1 |
| 南相馬 | 0 | 愛媛 | 14 |
| 茨城県 | 20 | 北九州 | 12 |
| 栃木 | 45 | 福岡支部 | 12 |
| 群馬 | 23 | 筑豊 | 20 |
| 吾妻 | 1 | 筑後支部 | 6 |
| 埼玉 | 34 | 佐賀県支部 | 3 |
| 千葉県 | 15 | 長崎県支部 | 1 |
| 東京 | 47 | 熊本県支部 | 5 |
| 奥多摩支部 | 47 | 大分県支部 | 2 |
| 神奈川支部 | 13 | 宮崎県支部 | 3 |
| 新潟県 | 1 | 鹿児島 | 1 |
| 佐渡支部 | 1 | やんばる支部 | 0 |
| 富山 | 1 | 石垣島支部 | 1 |
| 石川 | 5 | 西表支部 | 2 |
| | | 合計 | 811 |

（普及室）

## ◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

## ★編集後記

今月号は、ツバメのねぐらに関する記事が多くなりましたがいかがだったでしょうか。

先月号で、アットホームな小さな支部として南富士支部の活動を紹介しましたが、90 支部の内、約半数は 200 名以下で活動されています。通信では、規模の小さな支部の取り組みも募集しています。ぜひ活動の様子などお声をお寄ください。

（普及室／堀本理華）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第 19 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2014 年 10 月 23 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org